

事業コード	H17-建-継-17		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2516
路線名等	一級河川 八田川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	秋田市太平八田		担当者名	主幹(兼)班長 秋元 良三
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	02	施 策 名	災害に強い県土づくり
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H19 (5年)		総事業費	7.7億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長L=780m 計画高水流量110m ³ /s					
事業の立案に至る背景	八田川は河積が狭小であるため頻繁に洪水が発生し、家屋浸水、県道冠水や農地冠水により、地元住民に多大な被害を与えている。特に、平成13年7月30日豪雨では、当該区間の上流で甚大な被害が発生したことにより、災害関連事業の採択を受け平成15年度に完成している。このため、上流の改修による治水安全度向上に伴い、下流側の治水安全度確保のため一部区間について整備を行っているが、引き続き事業の促進を図っていくものである。					
事業目的	平成13, 14年に発生した浸水被害の解消を図り、住民の生命と財産を守る。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		763,000	763,000	0	
	経費 内訳	工事費	357,200	357,200	0	
		用補費	297,200	297,200	0	
		その他	108,600	108,600	0	
	財源 内訳	国庫補助	381,500	381,500	0	
		県 債	343,350	343,350	0	
その他		0	0	0		
一般財源		38,150	38,150	0		
事業内容		河道掘削工、 護岸工	河道掘削工、 護岸工			
事業の進捗状況	全体計画	7.63億円	平成16年度未迄	2.83億円	進捗率	37.1%
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	上位計画であるあきた21総合計画の中で河川の氾濫から人命や財産を守り、安全で安心な地域をつくる河川改修の推進に位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	平成15年度上流災害関連事業の完成に伴い、下流の改修要望が地元より強くあがっており、早期の完成が望ましい。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	河川整備率				
	指 標 式	改修延長 / 要改修延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目 標 値 a	44 %		データ等の出典	県河川砂防課調べ	
	実 績 値 b	44.4 %				
達成率 b / a	100.9 %		把握の時期	平成17年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	平成15年度に上流災害関連事業が完成しているが、住宅が密集する下流の改修には未着手であり、地域住民より早期の完成が望まれている。	30点
緊 急 性	現況河川の流下能力が低く、河道が激しい蛇行を繰り返しており、河幅も狭小であるため出水のたびに増水氾濫が頻発している。	13点
有 効 性	あきた21総合計画に位置づけられており、改修により災害防止効果の発現が期待される。	14点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用便益比は1.74であり、効率性は高い。 (コスト縮減の取り組み状況) 既設護岸を極力活かした法線としコスト縮減を図っている。	13点
熟 度	(地域の状況) 地元の改修に関する意向が強く、早期に改修を進める必要がある。 (環境対策) 新設護岸、既設護岸のすり付け部以外は、植生護岸工とし景観に配慮している。また、現況河道法線を尊重し、現況河道や山付き部などを極力保全した施工とする。	10点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く、「重要性」「有効性」「効率性」等から事業の必要性は高く評価できるものとする。	80点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード(H17-建-継-17)
箇所名 (秋田市太平八田)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況					
	浸水戸数	50戸以上 49~10戸 10戸未満	10 7 3	7		
	浸水面積	60ha以上 59~10ha 10ha未満	10 7 3			
	重要な公共施設	3施設以上 2~1施設	5 3	5		
	整備計画の策定					
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み 協議中であるが特段問題ない 策定に着手していないが予定がある	5 3 1	3		
	事業の進捗状況					
	進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90~100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	5 3 1	3		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない 課題は解決の見込みが無く事業が停滞する	5 3 1			
		計		40	30	
	緊急性	災害発生の危険度				
		改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満 40~59% 60%以上	10 7 3	10	
秋田県水防計画						
重要水防地域		評定基準区分A 評定基準区分B	5 3	3		
	計		15		13	
有効性	上位計画への貢献度					
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 1	5		
	河川整備の有効性					
	安全度	災害防止等効果が発現する 災害防止効果は現状と変わらない	5 2	5		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる 親水性は現状と変わらない	7 3			
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域 地域開発の計画がある	3 1	3		
		計			20	14
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比(B/C)	2.0以上 1.0以上~2.0未満 1.0未満	5 3 1	3		
	事業実施コストの縮減					
	該当項目数	3項目以上 2項目 無しまたは1項目	5 3 1	5		
	当初計画との比較					
	当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 1	5		
	計		15		13	
熟度	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	地元との合意形成の状況					
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	5 3 1	5		
	計		10		10	
合計			100	80		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		